



1989年日本遠征闘争の記録

命をかけた90日間の闘争

執行部 陣内恒治

最近完成した、アジアスワニー労組の日本遠征闘争記録映画の上映会が、韓国から当時の委員長ヤン・ヒスクと副委員長ウ・ヨンヒそして映画を作った「平和の風」のタルギさんが来日して、8月7日大阪、8日神戸、9日徳島の3日間、開催された。

映画は1989年、韓国女性労働者230名が突然解雇され、香川県白鳥町に本社がある（株）スワニーに代表5名が来日して闘ったドキュメンタリー映画です。

支給要求で籠城して、武装警察の介入によって負傷者も出た。それでも会社は交渉に応じようとはしなかった。



▲当時の写真から

労働者たちは解決に向けて、香川県の本社で三好社長と交渉するため代表団5名を日本に派遣した。

日本遠征闘争

89年12月22日、代表団は大阪空港に到着。そのまま香川県の本社に直行したが、会社は門を閉ざして対応しようとはしない。

1回目の交渉ではNHKや朝日新聞社を入れ21時から行われたが不誠実な回答で終わった。

90年1月21日までの約1カ月間に交渉は14回もたれ社長は廃業手続きの非を認めたが労側の要求には一切応じない。

会社は22日からバリケー

ドを張り団交拒否も繰り返された。彼女たちは、抗議行動、ビラ配り、各労組の支援を呼び掛けるなど決死の闘いを連日つづけた。



日韓労働者連帯のかけ橋

代表団が来日し、各労組や団体が支援をして約90日間闘い、解雇は撤回できなかったが、謝罪、雇用・生存権対策資金支払い、争議費用の負担、夜間学生の卒業までの保障などを補償させ、事実上の勝利を勝ち取った。

それを支えたのが、当時全港湾建設支部副委員長の中村猛さんでした。この支援が発端となって、アジアスワニー労組があった全北地域の民主労総との相互交流を続けてこられた。

このきっかけを韓国の「平和の風」が記録映画にするため8年間映像を集め、

編集を数十回もおこない、やっと今年、上映会が開催されることになった。

8月7日大阪

大阪での上映会場をどれくらいの規模で開催するかを議論した結果、200名が入るエルおおさか南ホールに決定し、準備を進めた。

当日は他の集会が重なったが、当時の闘争で頑張った人たちもたくさん駆けつけて頂き、約120名が参加した。

挨拶でアジアスワニー労組委員長ヤン・ヒスクは当時の辛い日々を思い出し、涙ながらに「日本人はみんな悪い人だと思いながら来日しました。しかし、各地での支援や闘争に関わる人々のおかげで勝利することができました」と報告された。交流会ではまるで同窓会のように懐かしい話で盛り上がりました。

8月8日神戸

翌日、マイクロバスで神戸に移動して白鶴酒造資料館なども見学した。会場である神戸市勤労会館に到着し、上映会が約50名の参加



←徳島にて

者で開催された。ヤン・ヒスクも徐々に当時を思い出し、委員長らしい発言で会場は盛り上がった。

8月9日徳島

徳島に移動中、上映時間まで観光を予定していたが、ヤン・ヒスクとウ・ヨンヒがスワニー本社に行きたいと言うので急遽、予定を変更し、早朝から香川県白鳥町にあるスワニー本社に向かった。

本社の門は当時のままでしたが、敷地内にある建物は一変し立派なビルになっていました。駐車場もバスが20台は入るような敷地でその奥にビルがあり、事務所に入るのも大変な作りで万が一の抗議にも備えたような敷地に変更したのかと感じた。

ヤン・ヒスクは門の前で無言でずっと立ち続け誰も声をかけることができなくて、しばらく見守りました。

そしてバスで町内を移動

しているとデモやビラ配布したことも思い出しているようでした。

宗教法人「おほもと」でお世話になったということで、見学中に管理者と話をしていたら、年配の女性が出てこられました。会話をすると、なんとスワニー会長である三好鋭郎氏の奥さんだったのです。険悪なムードになると思いましたが、ヤンヒスクは「いろいろな人生経験ができました」と言葉を交わされ、上映会の

ビラをそっと手渡しました。

その後、徳島に移動し、当時お世話になった方々とお会いして、たくさんお話をしていました。当時の資料や写真など大切に保管されており、サインが書かれた資料などもありました。上映会は千秋閣ホテルで行われ、当時の関係者を含め約50名で開催された。

私は5年ぶりの再会でした。過去には機関紙235号(2010年発行)でスワニー20周年集会を取り上げましたが、2名とも元気で変わらない様子で安心しました。

現在、彼女たちは労働運動には携わってはいませんが、家族を守るために頑張っています。

各地でこの映画の上映会を開催して頂いて、国境を越えた連帯、団結の精神を受け継ぎ、共に闘い続けましょう。



▲エルおおさか会場

大阪支部ホームページ開設！

<http://www.zenkowan-osk.org/>



光復70年8・15民族統一大会に参加して

書記次長 小林 勝彦

8月12日、日本国内で戦争法案反対の波が沸き立つ中、訪韓しました。

現政権は、過去の過ちを真摯に反省せず、近年では意図的に歪曲した歴史認識の拡大を進めている。アジア諸国への謝罪どころか、戦争ができる国を造るための法案を民意を無視して政府与党だけで強行採決しました。

そんな歯痒さと申し訳ない気持ちのまま、国際平和会議の晩餐会・前夜祭に招かれました。日本からは鳩山元首相をはじめ現役の国会議員、地方議員、大学教授などの著名人が参加し、韓国、中国、米国やヨーロッパからも大物議員や著名人など、総勢80名が出席していました。

東アジアから平和を

13日、大韓商工会議所にて「2015東アジア平和国際会議」が200名の参加で開催されました。主催者挨拶に続き、朴元淳（パク・ウォンスン）ソウル市長の歓迎の辞、李姫鎬（イ・ヒホ）金大中元大統領夫人・金大中平和センター理事長の祝辞、そして体調不良のため出席出来なかった村山元首相のビデオメッセージ、鳩山元首相の平和宣言、基調演説が行われました。その中で、ソウルの抗日義士

追悼碑にひざまずいて黙祷、謝罪した意義や中国に対する過去の侵略戦争（歴史の真実）を真に謝罪しなければ東アジアの平和、世界の平和はないと話をされました。また、広島・長崎の被爆国日本が、福島原発事故を引き起こした反省をしないで核（原子力発電）を手放さない事や、沖縄を軍事力の要石から平和の要石にして行かなければならないと訴え、紛争を未然に防ぐ東アジア共同体（東アジア平和会議）を造る提案を力強く演説されました。



続いて中国の李肇星（リ・チョウセイ）元外務大臣の演説がはじまり、鳩山元首相の12日の抗日義士追悼碑での謝罪、本日の中国に対する侵略戦争への謝罪が高く評価され、現日本政府が正しい歴史認識を認めれば中国は対話のテーブルに着く用意がある事や、その事が東アジア全体の平和に繋がると演説されました。

団結力を感じるデモ

14日、平沢（ピョンテク）

米軍基地近くでの反戦・反基地集会に参加しデモにも参加しました。

韓国の集会・デモは服装からコールまで統一されていて団結力が感じられました。集会自体も凄く若者が多く歌やダンスなど趣向を凝らした集会で楽しささえ感じられます。私たち日本の労働組合が忘れゆく姿であり、取り戻さなくてはいけない姿です。



夕方、統一と平和を願うロウソク集会に参加しました。ここでも、若者のパワーは凄く、歌ありダンスありで子供からお年寄りまで参加者や近くにいる人までリズムに乗り大変盛り上がっています。若者が先頭に立ち企画・立案する事が、これからの平和や希望に満ちた世の中には必要だと考えさせられました。

民衆の連帯を！

15日、国際平和討論会「朝鮮半島の光復と分断70年、歴史正義の回復と平和実現の課題」が全国民主労働組合総連盟本部の教室

にて開催されました。100人が入れる会場内があふれるくらいで、廊下で視聴される方が出るほど討論会の関心の高さが感じられました。

主催者（戦争反対平和実現国民行動）の挨拶と意義説明で幕が開き、訪韓団の代表挨拶として加来洋八郎団長（元全港湾大阪支部委員長）は、「日韓が真の友好を築くには過去の侵略戦争の謝罪と日米安全保障条約・米韓相互防衛条約を破棄し、朝鮮半島の統一と日朝国交正常化を実現しなければならない。そのためには、米・日・韓の民衆が連帯しなければならない」と述べました。

ペク・ハクスン氏（世宗研究所首席研究員）の「光復・分断70年、東アジアの



対立と韓米日市民社会の課題」と題した発言では、「日米韓3カ国の市民は各国政府と社会の各部門が相互に対決と戦争のアイデンティティーではなく、和解と平和のアイデンティティーを確立する方向に進むよう、

積極的に国家政策に影響を与え、社会に教育しなくてはならない。そのためには3カ国の市民は選挙前の公約を確認して代表となる議員を選び、また、当選後も公約を守るよう促していく事が重要である。国交正常化50年を迎えて近い国から



遠い国になってしまったこの関係の最中、安倍談話は本人の口からは慰安婦問題、侵略問題の謝罪が一切なかった事は残念である。（私にはもっと怒りがあるが、訪韓団の手前ザンネンに感じた。）安倍首相は抗日義士追悼碑で膝間づいて謝罪した鳩山元首相を見習わなければならない。1998年の日韓パートナーシップ宣言に戻り再構築して行かなければならない」と述べました。

ブルース・ギャグノン氏（宇宙への兵器と原子力の配備に反対するグローバル・ネットワーク事務総長）「米国の“アジアへの帰還”政策と反戦平和の課題」と題した報告で、米国の「アジアへの回帰」政策は、主

に中国の軍事的潜在力と発展に危機を持っていて、北朝鮮の核開発に頭を抱えているのではない」簡単に言うに「北朝鮮の核兵器は米国にとって大きな問題ではなく、米国の最も大きな関心は、急速にその軍事力を膨張させている中国に注がれている。そこには、日韓を巻き込み、軍事力とそれに関わる資金を大きくしていかなければならない」と発言されました。まとめとして、韓国では今、インターネット放送の立ち上げを進めています。日本でもメディアが取り上げないからと嘆くより、ネットを使って放送するなど拡散していかななくてはならないと感じました。

参加者の気持ちが熱い

15時から今回の訪韓の主目的である8・15民族統一大会に参加しました。まず驚いたのは参加者の数と参加者の気持ちが熱いことです。ただ参加すれば良いという気持ちで来ている人はいないぐらい盛り上がり真剣な表情です。先日の集会でも感じたのですが若者が圧倒的に多く会場付近で、各グループがパフォーマンスの練習をするなど、大会を盛り上げよう、成功させよう、また、民族統一を心から願っているのが私には言葉はわからなくても伝わってきました。

大会のメッセージで正義党議員が「先日の安倍談話は時代を逆走するもので慰安婦、植民地問題の謝罪す

らない許し難い談話である。私たちは村山元首相の談話を支持し日本の政権が一日でも早く村山談話を継承していく事を強く願う」と発言されました。数々の市民、労組、学生の代表者のスピーチがありましたが全ての方が安倍談話は認められない



と言っています。韓国政府が一定の評価をしているとコメントしたのとはほど遠く、民衆は納得していないと感じました。

◇ 総括 ◇

韓国で見た集会・デモは大阪支部として見習わねばならない事が多く、忘れ去られた闘いの原点だと感じました。戦後70年の節目の年である本年、安倍政権が強行に推し進めようとしている戦争法案を認めれば、よく言われている戦争ができる国づくりだけではなく、今後も国民の声を聞かずに国会だけで何でも決めてしまう事ができ、民主主義の崩壊です。

集会は面倒くさい、しんどいといっているだけでなく、支部の方針である反戦・平和・反差別そして、国際連帯の活動を拡大していき、いま一度、闘う全港湾の誇りを胸に闘争力の低下した労働組合を代表して闘わなければならないと強く感じました。